

中国の経済格差の現状

大東文化大学 垂水健一

増え続ける富裕層

最近、中国で富裕層の存在が目立つようになり、富裕層が話題になることが多い。ことし5月、苫小牧港から日本の牛肉を中国に密輸しようとした水産加工会社の社長らが逮捕された。この事件を伝える記事は、中国の富裕層の間で品質のよい和牛の人气が高く、密輸された牛肉は中国では日本よりも数倍から10倍近い高値で取り引きされていると紹介している。日本で牛海綿状脳症（BSE）が発生して以来、2001年9月から中国は日本産牛肉の輸入を禁止している。しかし富裕層の間で和牛に人气があり、値段の高い密輸品でもほしがるといえる人が多いようだ。

また昨年7月に日本のコメの販売が中国で認められ「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」が北京や上海の高級百貨店などに並んだ。売り出しから4日で、2kg入り約3000袋が売れた。値段は1袋約200元（約3000円）で、日本に比べ2、3倍の価格である。大半は富裕層が買ったものとみられる。中国都市部のサラリーマンの平均年収は3.6万元（約54万円）程度で和牛や日本のコメに富裕層以外の一般の市民にはちょっと手を出せない。

ところで富裕層といっても何%くらいいるのかなどはっきりした数字はない。豊かな上海でも平均年収は日本に比べて5分の1くらいだ。あるデータだと、その中国で年収35万元（約525万円）前後の富裕層は都市部に5万

世帯くらいと推定している。富裕層は経済成長とともに増え続けており、中国の貧富の差は広がっている。年収5万元（約75万円）以上の富裕層予備軍は全国で1300万世帯に上るだろうという見方がある。

広がるブランド志向

富裕層が増えていることは高価なマンションや自家用車がよく売れていることからわかる。沿海部の上海などの市街地ではマンションは日本円にして4000万円前後で、日本とほとんど変わらない。自動車の生産台数はことし年間1000万台を超え、日本の生産台数を上回るだろうと予想されている。中国からの日本への個人旅行も増え、東京・秋葉原で高額な電気製品を買う人たちが目につく。

上海の郊外には1戸建ての高級住宅の中に床面積500m²以上というような大邸宅も出現している。富裕層というよりは富豪と呼んだ方がよい人たちも登場している。富裕層が日本の肉やコメに関心を持つのは、中国にモノがないからではない。いまの中国では手に入らないようなものはないといってよい。富裕層が求めるものは、その生活の豊かさをさらに豊かにする、生活用品や食料品などでのブランド志向で、その傾向は広まりつつある。

富裕層が増えていることは中国の経済が発展している現われでもあるが、経済格差が広がることは問題である。所得格差と一言でいわれることが多いが、「格差」は2つの局面が

ある。1つは同じ都市に住んでいる人たちの間での所得格差。もう1つは経済の発展した沿海部が豊かで、農村が多い内陸部が貧しいという地域的な所得格差である。

発展進めた「改革・開放」

中国の国内を混乱させた「文化大革命」が終息して、経済発展を重視する鄧小平氏が主導権を握り、1978年から「改革・開放」政策が始まった。鄧氏は広い中国全体を同時に豊かにすることは難しいと考えた。そこで沿海部のような、外国の資金や技術を導入するのに条件のよいところがまず豊かになればよいという「先富論」を打ち出した。そして豊かになった地域が遅れている内陸部を助けてゆくという戦略であった。

たしかに先富論で沿海部が発展した。しかし豊かになった沿海の都市には海外からの投資も国内の優れた人材も集まり、発展は加速、農村の多い内陸部との間に地域的な経済格差を生んだ。たとえば2005年の1人あたりの国内総生産（GDP）でみると、一番豊かな沿海部の上海は、日本円に換算して約78万円だが、もっとも低い内陸部の貴州省では、上海の10分の1の7.8万円しかない。これが地域間の格差である。

「先富論」が格差を生む

一方で発展を続ける都市部に対して、鄧氏は先進資本主義国を含めた外国の進んだ経営方式や管理方式を吸収しようと呼びかけた。沿海部の都市では、金儲けが公認され、思い切った経営に取り組めるようになった。意欲的な人たちや香港や台湾の資金を利用できる人たちが「富裕層」に育っていった。郷鎮企業と呼ばれる沿海農村部の企業関係者、IT

関連の産業、不動産や株の投資に取り組んだ中に成功者は多い。

先富論は、鄧氏が考えたように内陸部に広がらず、経済格差は中国社会に大きな問題を投げかけている。政府は内陸部の開発に手を着けてはいるが、思うように進まない。農村では貧しいけれど仕事のない潜在的な失業者が多い。農民が現金収入をめざして都会に働きに行く。「農業」の生産性は低く、「農村」は荒廃に向かい、「農民」は恵まれないという、「三農問題」の解決に政府は取り組み始めたが、解決の道は遠そうだ。

都会では一般の市民と富裕層の二分化が進んでおり、豊かな人たちの生活の影で、日々の生活に追われる人たちの不満が生まれている。豪華なマンションが次々に建設されている。その建設にたずさわっているのは農村から出てきた農民である。農民の多くは建設現場や近くに建てられた臨時の建物で生活している。できあがるマンションやそこで住む人たちとそれを建てる農民を見比べると、この格差のまま放置しておいてよいのかと考えさせられる。

和諧社会や新農村建設

中国政府は問題解決のために「和諧社会」の建設を提唱している。和諧とは調和のとれたという意味で、にわかに所得の格差の解消は難しい。まずおたがいに温かい心で仲良くしてゆく社会をめざしている。また、農民の負担を少なくし、農村が豊かになる「新農村建設」も同じように提唱している。これも時間のかかる課題である。

中国の富裕層は日本人も驚くような豊かな生活を楽しんでいるが、その背景には多くの問題が残されている。